

近年、安全管理に関する取り組みは、全ての職場や教育現場、レジャー施設や官公庁にいたるまで様々な現場で、種々の対策がとられています。不幸にも事故が生じた場合は、その原因を詳細に分析し同一事象が再度起きることが無いよう新たな対策を講ずることは、これまでも長期に渡り行われていきました。現在では、様々な分野での安全管理の手法や考え方も変遷し、リスクマネージ(manage)からリスクヘッジ(hedge)、そしてリスクアセスメント(assessment)により、いかにして事前に安全を担保するかという考え方が主流になっているようです。医療現場における安全管理に対する取り組みは、これまで十分な議論と対策が講じられてきたとは言えないようです。

近年、医療安全に対する関心が急速に高まり、全ての医療従事者に対し医療安全に関する幅広い教育が行われるようになりつつあります。安全を確保し、安全を担保し、そして業務を遂行するための取り組みは、全ての事象に共通で必要不可欠であり、我々も日々安全管理に対する取り組みを継続して行い、安全管理を確立していかなければならないと思います。

昨今、日本医療機能評価機構より昨年度の医療事故が 2500 件を超え、過去最高であったと報道がなされました。これに対しては、様々な反応が即座に社会を駆け巡っています。一つの考え方に、医療安全は安全文化であり、Quality (質、個人、チーム、組織) と Error (認知力、環境負荷)、そして Conflict (患者家族、医療者間、自身) の三相からなり、どの相からでも安全は脅かされる事があり、全てが同時に崩れる事があったとすれば、事故の回避は間逃れる事はできないと思われまます。医療の現場では、多くの人間が多種多様の職種で、予期せぬ病状の変化に対応しなければなりません。医療現場における安全文化の確立は、ゴール無き迷路を進み続けるようなものかもしれませんが、進み続けた先には、『安心』という大切なものがあるのだらうと思います。



## 私たちの取り組んでいる 医療安全活動

### 医療安全小委員会 第2弾

#### ★ 薬剤部 ★ 二上委員

患者様の安全を保つため、ミスがあってはならない緊迫感の中、下記のような工夫を取り入れて調剤を行っています。

◎調剤台はアイウエオ順ではなく薬効別に配列。

◎名前が類似した薬品・複数規格のある薬品にはシールを張り注意喚起。

◎監査段階で調剤ミスが発覚した場合、その情報を薬剤部内で共有し、原因を追究。再発防止に努める。

◎用法・用量・重複投与・相互作用・抗がん剤の休薬期間など、疑問がある場合は疑義照会し、その結果、処方箋の修正・次回の調剤のためのコメント入力をおこなう。

#### ★ 栄養部 ★ 森川委員

アレルギーをお持ちの患者さんに関しては、直接病室に伺い、「どの食品・食材か」、「エキス（煮汁など）は大丈夫か」など給食に提供される食品を中心に聞き取りを行います。コンソメやシューマイといった加工品には、肉のエキスや卵など様々な食品が使用されています。アレルギーのある方は、お膳にチェック用紙をつけたり、別の献立をたてたりして細心の注意を払っています。また、食事の誤配膳を防止する対策として、調理員や栄養士によって何重にもチェックをしています。

食物アレルギーのある患者さんが入院された場合は、栄養部までご連絡下さい。

#### ★ ME部 ★ 竹森委員

病棟へ貸し出す中央管理機器は安全対策の観点から、清掃、点検を行った機器を貸出することで使用時のトラブルを防止しています。また、各現場から機器保守点検管理表を提出してもらい院内で使用するすべての医療機器の管理を行っています。

部内では、マニュアルの整備を行い知識・技術の向上、また情報交換を密にし、指さし確認ダブルチェックを行いインシデントの発生を防止しています。

#### ★ 総務課 ★ 堤委員

病院長ラウンドは、月1回の割合で病院全部署を対象に毎月2~3部署程度をピックアップし、年間通して病院内全部署を安全ラウンド実施しています。

ラウンドで現状を確認し、問題点を指摘しています。病院長がラウンドをされることで、その場で病院長から指示が出されることによって早期解決できるというメリットもあります。また、職員に対し医療安全に向けた意識向上への影響もあります。

ラウンド後、結果を評価しラウンド部署へフィードバックをして、改善に取り組んでいます。